

## 活用ナビ

①【ねらい】水墨画を通して、室町時代の文化の特徴について考える。

②●**ア**の水墨画は、誰の何という作品でしょう。

●**ア**の説明を読みましょう。

③●「天橋立図」を見て、思ったこと、気づいたことを書きましょう。

※水墨画のすばらしさだけでなく、疑問等も引き出したい。

④●雪舟はどのようにしてこのような作品を作ったのか、話し合しましょう。

※教科書の本文の記述から、雪舟の生き方に共感させたい。

※水墨画が広まり、現在も大切にされていることに気づかせる。

⑤●水墨画が広まり、今も大切に残されているのはなぜでしょう。

※作品のすばらしさと共に、ふすま絵やかけ軸等、日常生活に関わりが深いものに使われるようになったことにも気づかせたい。

●室町時代の文化で今も続いているものを教科書からさがそう。

※茶の湯、生け花、庭園について触れる。

⑥●室町文化の特徴と考えたことをノートにまとめましょう。

※文化が引き継がれることのすばらしさも記述させたい。

6年-9

2-4 室町文化と力をつける人々  
質素で静かな美しさ P118~P119

名前

6年 組 番

①【ねらい】水墨画を通して、室町時代の文化の特徴について考える。

②【基本】**ア**の水墨画は誰の何という作品だろうか。

・画家名

雪舟

・作品名

天橋立図

・**ア**の説明を読もう。

③「天橋立図」を見て、思ったこと、気づいたことを書こう。

- ・墨の濃淡だけ描いていて驚く。
- ・建物や木の細かいところまで表現している。
- ・自然の様子が描かれていて、落ち着いた雰囲気がある。
- ・雪舟はどのようにして描いたのだろうか。
- ・今も水墨画はかけ軸に描かれているのを見たことがある。

④【ポイント】雪舟はどのようにしてこのような作品を作ったのか、話し合おう。

⑤【ポイント】水墨画が広まり、今も大切に残されているのはなぜだろうか。

- ・室町時代の大切な文化だから。
- ・床の間にかざるかけ軸のように、人々の生活に入って使われるようになったから。
- ・水墨画を伝える人や作家がその後も続いたから。

・室町時代の文化で今も続いているものを教科書からさがそう。

⑥室町文化の特徴と考えたことをノートにまとめよう。

(例) 室町時代には、水墨画や茶の湯、生け花など、多くの文化が生まれた。それらは今も残ったり、続いたりしている。私たちもそれらの文化を大切にしていきたいと思います。

©社会科資料読解ワークシート開発プロジェクト（東北学院大学 佐藤正寿，教育出版株式会社，株式会社教育同人社）2020

## 資料の読解

雪舟は室町時代の水墨画家である。日本独自の水墨画の様式を確立し、優れた作品を数多く生み出した。この「天橋立図」をはじめとして、6点が国宝に指定されており、後の画家にも大きな影響を及ぼした。

「天橋立図」は、日本三景の一つである天橋立を雄大な構図で描いたもの作品である。雪舟が80歳を越えて現地に足を運んで描いた作品とされている。墨色のすばらしさや躍動感あふれる点を子どもたちにも感じ取らせ、雪舟が中国にわたって技能を高めたり、全国を歩き回ったりしながら、作品づくりに力を注いだ様子を想像させたい。

## 読解の方法

- (1) 最初に作家名と作品名を確認したあとに、キャプションを読ませる。国宝の説明を簡単に行い、作品が価値のあるものということを理解させる。
- (2) 続いて、「天橋立図」を見て、子どもたちが感じた気づきや思いを引き出すようにする。作品のすばらしい点が次々と出てくるであろう。それだけではなく、思ったこととして、「雪舟は、どのようにして描いたのだろうか?」「描くまでの苦労は何だったのか?」といった雪舟の生き方に関わるものも出させたい。
- (3) (2)の思いについて教科書や資料集について調べさせ、雪舟が日本独自の水墨画の様式を完成させたこと、書院造でふすま絵やかけ軸に水墨画が広く用いられたこと、後世に影響を与えたこと等を話し合わせる。そして、そのことが水墨画の文化が後世にも伝えられている理由になっていることを理解させたい。